

## 平成27年度ボランティア活動補助金審査における選評

### 1 発達障がい児に関わる教科学習教材データベース化事業（まなの樹）

3点について。

一つ目はデータベースの利用。データベースを作っても、それを「使って」というだけでは、データベースそれ自身の向上につながらない。基本的にはできたものからオープンにし、「どうやって使ったのか」、「使い勝手はどうだったか」などモニターになっていただき、モニタリングの結果をデータベースの質の向上につなげていくということをしていく必要がある。そういう形でどんどんオープンにしてもらってよい。

二つ目はデータベースの数。教材の数をどうやって向上させていくか。教育委員会とのネットワークができたわけなので、教育委員会とのネットワークを活用する。あるいは同じようなことをやっている団体と協働して共有していくということが必要。数を増やすだけでなく、どうやって利用するのかということを使っていただいで欲しいと思う。

三つ目は、財政基盤の確保。教材のデータベースについても、完成後メンテナンスが継続的に必要。より収益があがるような、少なくともちゃんとしたメンテナンスができるようなシステムを作っていってほしいと思う。そういう意味で特に来年度大きな飛躍・完成に向けて大いに期待している。

### 2 外国につながる子ども・若者の教育機会の保障のためのプロジェクト（ABCジャパン）

来年は事務局から文部科学省の支援がなくなるという話を聞いて慌てたが、プレゼンの中で、そのことにさらっとふれて、淡々としていらっしゃったので安心しました。補助金はもちろん重要だが、それに頼りすぎるのも、ということで、いいきっかけになるかもしれません。

まず、事業収益を増やしてほしいという意見が出ました。団体の活動基盤をしっかりしたものにするためにも事業収益増やしていただきたい。

次に、文部科学省の600万円の補助金が来年なくなるということでその方策のひとつとして、受益者負担というのが出た。子供・若者、それぞれ事情があり、一律というわけにはいかないでしょうが、事情を見ながら多少減額したりということも必要なのかなと思う。

次に、文部科学省の支援がなくなるということですが、それをいい方向に持ってほしい。それは今申し上げた受益者負担であったりセミナーの有料化だったりということですね。

教育の内容や質を落とすことなく、さまざまな窓口を開拓し、財政基盤を安定させていただきたいと思った。

### 3 18歳で就職自立を目指す若者への就労支援（フェアスタートサポート）

児童養護施設などの施設に暮らす子供たち・若者たちに対しては、まだまだ支援が十分に行き届いていない現状がある、というのは幹事会・審査会を通じた共通の認識。

このような社会的課題に光をあてる取り組みとして高い評価。また、施設で暮らす子供たち・

若者を貴重な人的資源と捉えそれを活用しないのは社会的な損失であり、そのキャリア形成を支援する、という考えにも共感した。さらに今回の提案事業は、株式会社であるフェアスタートが事業を行う中で見出された課題に対処するために NPO 法人として取り組むものであり、事業の目的が明確になっていることもうかがえる。

特に重要となるのは、対象者ひとりひとりの課題に合わせた支援であり、また、施設退所後も含めた継続的な取り組みと考える。パソコンスキル・IT スキルに対する支援が提案されているが、現在の団体の力量やこれまでの取り組みの経緯から「できること」ではなく、対象となる子供たち・若者に「必要とされること」を念頭に、専門的な人的ネットワークを活用して、事業に必要な人的資源の確保に努めサポート体制を構築してほしい。

提案には、県内の全児童養護施設・自立援助ホーム、そして児童自立施設の 3 割からの参加を目指すとする。県の補助金を受けたこの事業が、県内の多くの施設に認識され活用されることを期待する。

#### **4 アルクヒューマンセンター・アルク相談事業(市民の会寿アルク)**

「寿アルク」が、寿地区という神奈川県でも特別な課題を抱えている地域において、長年にわたり、アルコール依存症の人たちに対する断酒から社会復帰、就労支援を続けてこられたことに審査委員一同敬意を表する。

今回、新しい挑戦として相談事業の強化を申請され、基金 2 1 としてもそれを後押ししようと考え採択した。

採択にあたっては、福祉、行政等での経験豊かな相談員に加え、アルコール依存症回復者が指導員として支援活動に参加するなど、民間団体ならではの活動手法が評価された。また、今回、相談室の運営を担う専従の職員を配することで、相談事業の充実に加えて、相談室についての周知をはかり、そのことによって、これまで以上により広汎な予備的予防的な相談にも対応していくという点も評価された。

この事業を通じて、新たな人材が育成されていくことを期待する。また、寿アルクの活動を社会に伝えることにもこれまで以上に注力していただき、会員、寄付者といった支援者の拡大にもつとめて、補助金交付終了後にも、相談事業の持続できるようにしていただきたい。